

2020年2月18日

～第65回 静岡県版 景気ウォッチャー調査(2020年1月)～

## 消費増税と暖冬で消費は低迷、新型肺炎の拡大を懸念

静岡経済研究所（理事長 一杉逸朗）では、1月下旬に実施した「景気ウォッチャー調査」の結果をとりまとめましたので、ご案内します。

### 現状判断（概要）

- 家計消費関連で消費の減退が続き、事業所向けビジネスも大幅低下したことから、悪化判断が続いた。
- 県内景気の「現状判断指数（方向性）」は35.5と、前回10月調査（34.2）から+1.3ポイントとわずかに上昇したものの、景気の“横ばい”を示す指数「50」を7期連続で下回った。

### 先行き判断（概要）

- 新型コロナウイルスの影響で消費マインドが冷え込むとみる向きが大勢で、悪化判断が続く見通し。
- 2～3カ月先の景況感を示す「先行き判断指数（方向性）」は42.2と、前回調査（42.6）から△0.4ポイント低下し、4期連続で「50」を下回った。

※本件のお問い合わせ先 担当（森下 泰由紀）

## 消費増税と暖冬で消費は低迷、新型肺炎の拡大を懸念

2020年1月調査の現状判断指数は35.5と、前回10月調査（34.2）から+1.3ポイントとわずかに上昇したものの、景気の“横ばい”を示す指数「50」を7期連続で下回った（図表1、2）。また、2～3カ月先の景況感を示す先行き判断指数は42.2と、前回調査（42.6）から△0.4ポイント低下し、4期連続で「50」を下回った（図表1、4）。

現状判断については、家計消費関連において、消費増税後の節約志向が小売関連や飲食関連で顕在化しているほか、暖冬による鍋物商材や冬物衣料品の需要の落ち込みに加え、新型コロナウイルスの感染拡大による宿泊予約のキャンセルが発生し、景況感は引き続き低調である。事業所向けビジネス関連と雇用関連については、企業の経営状況が芳しくない中、受注量が減少し、求人市場も以前のような活況はみられず、景況感は前回より悪化した。

先行きについては、家計消費関連では、年度末から新年度にかけての需要に期待がかかるが、新型コロナウイルスの影響で消費マインドが冷え込むとみる向きが大勢で、悪化判断が続く。事業所向けビジネス関連は若干改善するものの、大手企業の経営悪化の波を受けて悪化判断が継続する。雇用関連は、特に正規雇用に対する採用に慎重な企業が多く、悪化判断が続く。

### < 調査結果の要旨 >

（D. I. は次頁「調査の要領」参照）

#### **現状判断（D. I. =35.5）** 家計消費の減退続き、事業所向けビジネスも大幅低下

- ・家計消費関連（D. I. =34.9）増税後の節約志向や暖冬、新型肺炎が重なり悪化傾向続く
- ・事業所向けビジネス関連（D. I. =37.5）受注量や売上単価の低下に伴い、悪化判断
- ・雇用関連（D. I. =36.1）求人数の減少により、悪化判断が続く

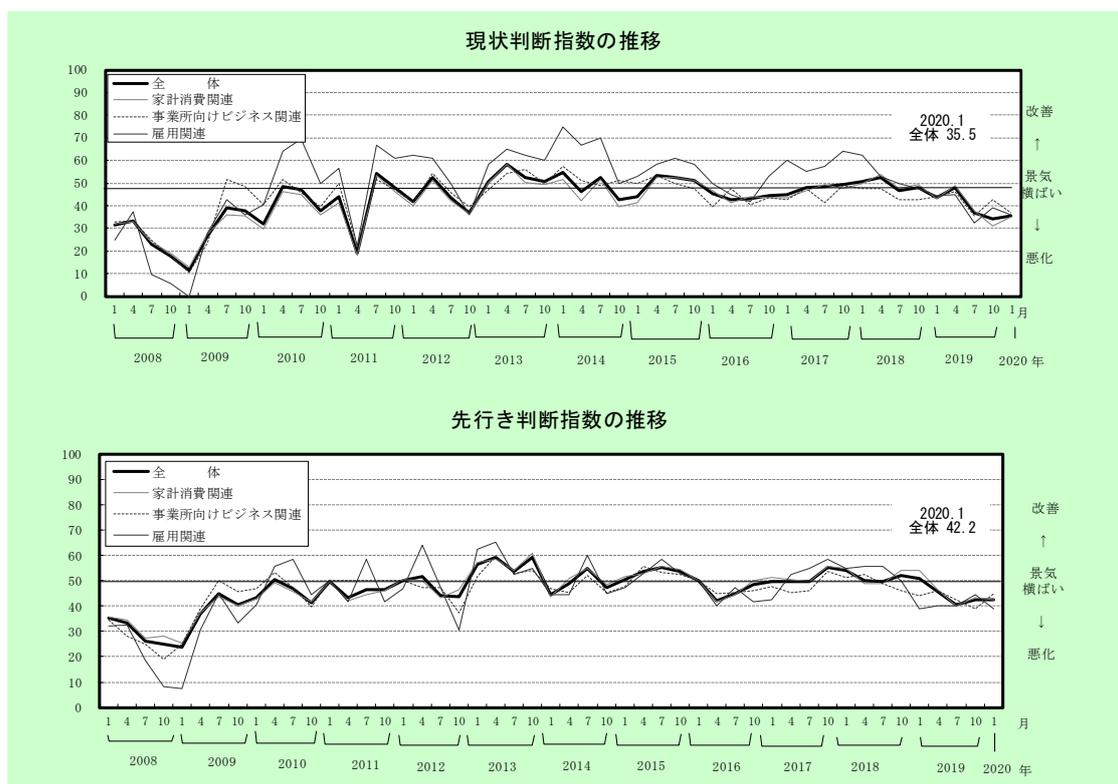
#### <現状判断の理由>

- ・家計消費関連 … 「来客数」の減少が響き、「販売量」も落ち込む
- ・事業所向けビジネス関連 … 「受注量」の減少や「取引先の様子」から、悪化判断
- ・雇用関連 … 求人を控えるなど「求人の動き」が鈍化

#### **先行き判断（D. I. =42.2）** 新型肺炎の感染拡大による自粛ムードを危惧

- ・家計消費関連（D. I. =42.1）年度末の需要期も節約姿勢が続き、新型肺炎の影響も懸念
- ・事業所向けビジネス関連（D. I. =43.8）好材料に乏しく、製造業の減速もマイナス要因
- ・雇用関連（D. I. =38.9）人手不足に一服感、採用に慎重な姿勢が目立つ

図表1 現状判断指数（D. I.）と先行き判断指数（D. I.）の推移



【D. I.は50が「景気横ばい」、上回れば「改善」、下回れば「悪化」の傾向を示す】

### 調査の要領

- (1) 調査目的：景気に関連した動きを観察できる立場にある人の協力を得て、景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断を調査することを目的としている。
- (2) 調査対象・方法：経済活動の動向を敏感に反映する事象を観察できる業種から選定した担当者にアンケート調査
  - ・家計消費関連 (n=73)
    - (内訳) 小売関連 (n=28) …… 百貨店、スーパー、乗用車販売など
    - 飲食関連 (n=9) …… 飲食店、外食チェーンなど
    - サービス関連 (n=26) …… 観光ホテル、旅行代理店など
    - 住宅関連 (n=10) …… 不動産販売、住宅販売など
  - ・事業向けビジネス関連 (n=20) …… 印刷、広告代理店、運輸など
  - ・雇用関連 (n=9) …… 人材派遣、職業紹介など
- (3) 調査事項：現在の景気の水準について/景気の現状に対する判断（3カ月前との比較）/その判断理由と、追加説明および具体的状況の説明など（自由回答）/景気の先行きに対する判断（2～3カ月先の予想）
- (4) 調査時点：2020年1月下旬
- (5) 回答状況：調査対象109名のうち、有効回答を寄せていただいた方は102名で、有効回答率は93.6%である。

\* 景気判断指数とは、景気の現状や先行きに対する判断を点数化（下表）し、それらに各判断の構成比（%）を乗じて指数（D. I.）化したものである。これにより、判断指数（方向性）においては、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」の傾向を示すこととなる。

評価	現在の景気（水準判断）	良い	やや良い	どちらとも言えない	やや悪い	悪い
	現状判断	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	先行き判断	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
	点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

## 現状判断 家計消費の減退続き、事業所向けビジネスも大幅低下

### 家計消費関連 (D. I. =34.9) 増税後の節約志向や暖冬、新型肺炎が重なり悪化傾向続く

家計消費関連の現状判断指数は34.9と、前回から+3.6ポイント上昇したが、横ばいを示す「50」を7期連続して下回った。内訳をみると、小売関連 (33.0) では、「消費増税の影響が出ており、まとめ買いがなくなった」(靴販売) や、「暖冬で鍋物商材ダウン」(スーパー)、「暖冬で冬物衣料品の需要が落ち込み、セールへの反応も薄い」(アパレル) など、暖冬のマイナス影響がみられる。飲食関連 (30.6) では、「節約志向により、コンビニやファミレスに客足が向いている」(居酒屋)、「今年は新年会需要が減っている」(割烹) など、消費者の節約志向が現れている。サービス関連 (38.5) では、「暖冬で来場者数は伸びている」(観光施設) と、暖冬によるプラス効果を楽しんでいる施設が一部にあるものの、「新型コロナウイルスの影響で、中国人旅行者や中国関係宴席のキャンセルが出始めている」(都市型ホテル) など、中国人観光客の減少が県内にも影響している。住宅関連 (35.0) は、「住宅展示場やモデルルームへの来場者数が減っている」(住宅・マンション販売) など、受注につながる顧客の動きの悪さが指摘されている。

### 事業所向けビジネス関連 (D. I. =37.5) 受注量や売上単価の低下に伴い、悪化判断

事業所向けビジネス関連は37.5と、前回から△5.0ポイント低下し、横ばいを示す「50」を18期連続して下回った。「受注量が伸び悩んでいる」(印刷)、「紙媒体広告、新聞広告で受注減が顕著になっている」(広告)、「安い産業給食の売上が伸びており、節約志向の現れとを感じる」(給食) など、受注量や売上高の減少が悪化判断につながっている。

### 雇用関連 (D. I. =36.1) 求人数の減少により、悪化判断が続く

雇用関連は36.1と、前回から△2.8ポイント低下し、6期連続の悪化判断となった。「製造業の求人数が減少傾向にある」(求人情報誌)、「以前のような人手不足感を感じる事がなく、質を求めた厳選採用に舵を切っている。中高年層の正規雇用には慎重」(人材派遣) など、前回に引き続き、求人数の減少を指摘する声が聞かれた。

図表2 現状判断指数D. I. の推移

分野	2018年				2019年				2020.1月	
	1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	今回	前回比
全 体	50.7	52.4	47.3	47.8	43.5	48.0	36.9	34.2	35.5	+1.3
家計消費関連	50.0	53.8	48.3	49.3	43.2	49.0	37.8	31.3	34.9	+3.6
小売関連	48.3	45.8	46.0	48.3	40.8	44.0	37.1	26.8	33.0	+6.2
飲食関連	40.6	56.3	53.1	46.9	41.7	46.9	36.1	30.6	30.6	+0.0
サービス関連	52.8	58.0	46.9	47.1	44.0	55.0	39.0	35.0	38.5	+3.5
住宅関連	55.0	65.0	55.0	60.0	50.0	50.0	38.9	35.0	35.0	+0.0
事業所向けビジネス関連	47.6	47.6	42.9	42.5	44.0	46.3	35.7	42.5	37.5	△ 5.0
雇用関連	62.5	52.8	50.0	47.5	44.4	45.0	32.5	38.9	36.1	△ 2.8

## <現状判断の理由>

### 家計消費関連…「来客数」の減少が響き、「販売量」も落ち込む

家計消費関連は、“(やや)悪くなっている”の判断理由として、「来客数の動き」を挙げる声をもっとも多く、「昨年10月以降、客足が激減している」(乗用車販売)、「新型コロナウイルスの影響で海外の宿泊客からキャンセルが出たり、旅行を控える動きがみられる」(観光ホテル)などの声が聞かれた。また、小売関連を中心に、「暖冬の影響で冬物ファッションの販売が非常に悪い」(スーパー)など、「販売量の動き」を挙げる意見も聞かれた。

### 事業所向けビジネス関連…「受注量」の減少や「取引先の様子」から、悪化判断

事業所向けビジネス関連では、“(やや)悪くなっている”の判断理由として、「取引量が減少している」(広告)、「折込チラシの部数が下げ止まらない」(印刷)など「受注量や販売量の動き」を挙げる声が多く、「取引先の経営状況に余裕がないため、物が動かず、結論が遅い」(広告)といった「取引先の様子」を挙げる声もあった。

### 雇用関連…求人控えるなど「求人の動き」が鈍化

雇用関連では、“(やや)悪くなっている”の判断理由として、「求人の動き」を挙げる声が多い。「目新しい求人はない。製造系求人が増えていない」(人材派遣)、「大手企業の人員整理が進み再就職依頼が増加するも、受入企業の条件は厳しくなっている」(職業紹介)などの声が聞かれた。

図表3 景気の現状判断理由

#### <家計消費関連 (n=69) >

景気の判断理由	来客数の動き	販売量の動き	客単価の動き	お客様の様子	競争相手の様子	左記以外
(やや)良くなっている (n=5)	3	2	0	0	0	0
変わらない (n=24)	8	10	0	5	1	0
(やや)悪くなっている (n=40)	23	10	3	3	0	1

#### <事業所向けビジネス関連 (n=19) >

景気の判断理由	受注量や販売量の動き	受注価格や販売価格の動き	取引先の様子	競争相手の様子	左記以外
(やや)良くなっている (n=1)	1	0	0	0	0
変わらない (n=8)	5	0	2	1	0
(やや)悪くなっている (n=10)	6	0	4	0	0

#### <雇用関連 (n=9) >

景気の判断理由	求人の動き	求職者の動き	就職者の動き	窓口の繁忙度合い	他の人材関連会社等の様子	左記以外
(やや)良くなっている (n=0)	0	0	0	0	0	0
変わらない (n=4)	2	0	0	0	1	1
(やや)悪くなっている (n=5)	5	0	0	0	0	0

※nは、回答先数

※判断理由の無回答・複数回答先を除く

## 先行き判断 新型肺炎の感染拡大による自粛ムードを危惧

### 家計消費関連 (D. I. =42.1) 年度末の需要期も節約姿勢が続き、新型肺炎の影響も懸念

家計消費関連の先行き判断は42.1と、前回調査 (43.4) から△1.3ポイント低下し、横ばいを示す「50」を4期連続で下回った。内訳をみると、小売関連 (44.6) では、「卒業式や歓送迎会用の生花の販売増に期待」(花屋) など、年度末から新年度にかけての需要に期待が高まる一方、消費増税後の節約姿勢が続くことに加え、「新型コロナウイルスの影響で中国製の商品の入荷が未定」(衣料品販売) など、新型肺炎の影響を懸念する声が多く聞かれた。飲食関連 (36.1) やサービス関連 (40.4) でも、その影響で「宴会の自粛が予想される」(外食チェーン)、「旅行や外出を控える人がかなり多く出ることが予想される」(観光ホテル) など、先行きを不安視している。住宅関連 (45.0) も、「展示場の来場者数が下げ止まったまま推移している」(住宅・マンション販売)、「マンション価格高騰による成約率の低下が懸念される」(同) など、厳しい見方が多くなっている。

### 事業所向けビジネス関連 (D. I. =43.8) 好材料に乏しく、製造業の減速もマイナス要因

事業所向けビジネス関連は43.8と、前回調査 (38.8) から+5.0ポイント上昇したものの、引き続き悪化判断となった。「東京五輪終了まで景気は良くなるのではないか」(広告) という声がある一方、「小ロット・多品種・低プライスの仕事が目立つ」(印刷)、「商店街では売上規模が大きい店ほど集客力が落ちている」(広告)、「大手メーカーの生産減少の影響が中小企業にも出てきそう」(税理士事務所) など、先行きに対する厳しい見方が広がっている。

### 雇用関連 (D. I. =38.9) 人手不足に一服感、採用に慎重な姿勢が目立つ

雇用関連は38.9と、前回調査 (44.4) から△5.5ポイント低下し、横ばいを示す「50」を5期連続で下回った。「海外情勢の不透明感による影響が出てくる可能性がある」(職業紹介) や「正社員や中高年層の就職は厳しくなっていく」(人材派遣) など、採用に慎重な姿勢が強まりそうだ。

図表4 先行き判断指数D. I. の推移

分野	調査時期	2018年				2019年				2020.1月	
		1月	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	今回	前回比
全 体		54.1	50.2	49.0	52.2	50.7	45.8	40.6	42.6	42.2	△ 0.4
家計消費関連		54.8	49.0	48.3	54.2	54.1	46.5	40.1	43.4	42.1	△ 1.3
	小売関連	49.1	46.7	43.5	50.9	50.0	46.6	41.1	40.2	44.6	+4.4
	飲食関連	56.3	43.8	50.0	53.1	58.3	46.9	44.4	44.4	36.1	△ 8.3
	サービス関連	56.7	48.0	50.0	55.2	55.0	45.0	40.0	47.0	40.4	△ 6.6
	住宅関連	65.0	62.5	57.5	62.5	60.0	50.0	33.3	42.5	45.0	+2.5
事業所向けビジネス関連		51.2	52.4	48.8	46.3	44.0	46.3	42.5	38.8	43.8	+5.0
雇用関連		55.0	55.6	55.6	50.0	38.9	40.0	40.0	44.4	38.9	△ 5.5

## 総括 足元の景気は停滞、新型肺炎の長期化が不安材料

今回の景気判断を総括すると、まず現状判断指数は35.5と前回調査34.2から+1.3ポイント上昇したものの、「家計消費関連」「事業所向けビジネス関連」「雇用関連」がいずれも40を割り込む結果となった。「家計消費関連」では、消費増税後の節約志向が現れているほか、暖冬と新型コロナウイルスが重なり悪化判断となった。「事業所向けビジネス関連」では、取引先企業の経営状況の悪化から受注量の減少が目立ち、「雇用関連」では、以前ほどの人手不足感は感じられず、量より質を求めるなど求人者に慎重な姿勢に変化している。

先行き判断指数は42.2と、前回調査（42.6）から△0.4ポイント低下し、悪化判断が続く。「家計消費関連」では、年度の変わり目の需要喚起に期待する声もあったが、新型コロナウイルスの影響の拡大や長期化に対する懸念などから、総じて先行き停滞感が強い。「事業所向けビジネス関連」では、好材料が見つからない中、大手メーカーの生産減少の影響が県内中小企業にも波及するとの見方から、引き続き悪化判断となった。「雇用関連」では、製造業など新規求人に一服感がみられ、特に正規雇用で求人を控える傾向が続くとの見方が多い。

以上、静岡県内のウォッチャーによる景気判断は、消費増税後の節約志向、暖冬による冬物商材の不振、新型肺炎によるインバウンド需要の減退や外出控え等を背景に、悪化とみる向きが多い。今後については、新型肺炎の終息時期に関心が集まっており、悪影響が長期化すれば県内の景況感もさらに下振れする懸念がある。

（森下 泰由紀）

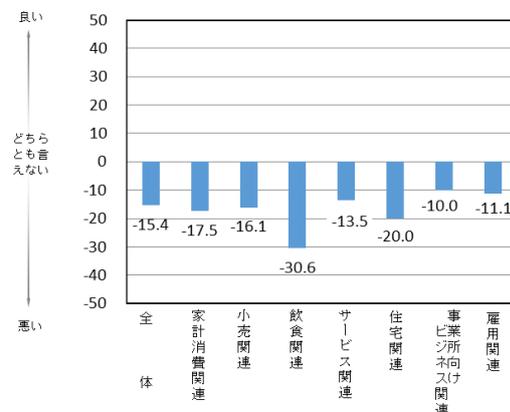
### <参考>

#### 現時点の景気は、飲食関連で“悪い”判断が目立ち、全体でも低水準

現時点での景気が“良いか悪いか”を聞いた「水準判断」は△15.4と、基準値「0」を下回り、前回調査（△15.9）とほぼ同水準となった（図表5）。

内訳をみると、家計消費関連は△17.5で、とりわけ、飲食関連（△30.6）や住宅関連（△20.0）で“悪い”との判断が目立つ。事業所向けビジネス関連も△10.0と“悪い”という判断が続き、雇用関連も△11.1と“悪い”との判断となった。

図表5 現時点での「水準判断」



※ 現在の景気に対する判断を点数化して各判断の構成比を乗じた上で、「どちらとも言えない」をゼロとして数値化したもの。プラスであれば景気が「良い」、マイナスであれば景気が「悪い」ことを示す。